

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-4

< 第30週 > 咽頭結膜熱 - 定点当たり報告数は第25週には過去10年間の全ての週と比較して最高値となり、その後第29週まで最高値を更新し続けたが、第30週は減少した / その他最新動向



注目すべき感染症
P.5-6

< 腸管出血性大腸菌感染症 > 2004年に入って初めての死亡例の報告があった



病原体情報
P.7-8

咽頭結膜熱患者から検出されているアデノウイルス 2004年 / ヘルパンギーナ患者から分離されているウイルス 2004年 / ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2004年



速報
P.9-10

アデノウイルス11型による集団発生事例 - 千葉県



海外感染症情報
P.11-14

ヨーロッパにおけるダニ媒介性脳炎: 国別の基本情報



感染症の話
P.15

< 今週はお休みです >



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(30週)
P.16-22



30週のデータ
P.23-32



発生動向総覧

*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(平成15年11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)。

< 第30週コメント > 7月29日集計分

全数報告の感染症

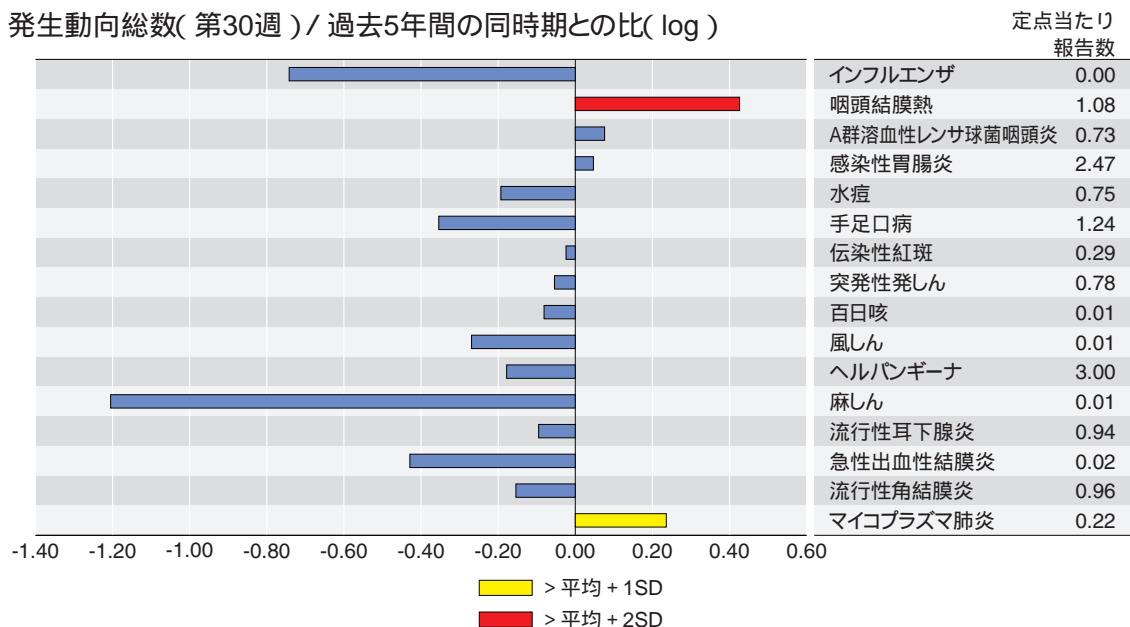
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: コレラ 6例(推定感染地域: 国内1例、フィリピン4例、疑似症1例)
細菌性赤痢 7例(推定感染地域: 国内3例、中国1例、インドネシア1例、タイ1例、メキシコ/パナマ1例)
腸チフス 1例(疑似症)
 - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 99例(うち有症者71例)
報告の多い都道府県: 大阪府(11例)、宮城県(10例)、東京都(7例)、福岡県(7例)
血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(34例)、O157 VT2(28例)、O26 VT1(12例)、O111 VT1(5例)、O26 VT1・VT2(2例)、O111 VT2(1例)、その他(17例)
年齢: 10歳未満(40例)、10代(11例)、20代(23例)、30代(9例)、40代(6例)、50代(3例)、60代(1例)、70歳以上(6例)
 - 4類感染症: マラリア 2例(三日熱1例__推定感染地域: セネガル、熱帯熱1例__推定感染地域: ケニア)
レジオネラ症 1例(57歳)
A型肝炎 3例(推定感染地域: いずれも国内)
 - 5類感染症: アメーバ赤痢 5例(推定感染地域: 国内4例、中国1例、
推定感染経路: 経口感染1例、性的接触3例、不明1例)
ウイルス性肝炎 1例(B型__推定感染経路: 不明)
クロイツフェルト・ヤコブ病 1例(孤発性)
後天性免疫不全症候群 10例(無症候8例、AIDS 1例、その他1例)
推定感染経路: 性的接触9例(異性間2例、同性間7例)、不明1例
推定感染地域: 国内9例、不明1例
梅毒 2例(早期顕症1例、無症候1例)
破傷風 1例(65歳)
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例(VanA__菌検出検体: 尿)
- (補)他に、ウイルス性肝炎1例の報告があったが削除予定。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第30週) / 過去5年間の同時期との比(log)

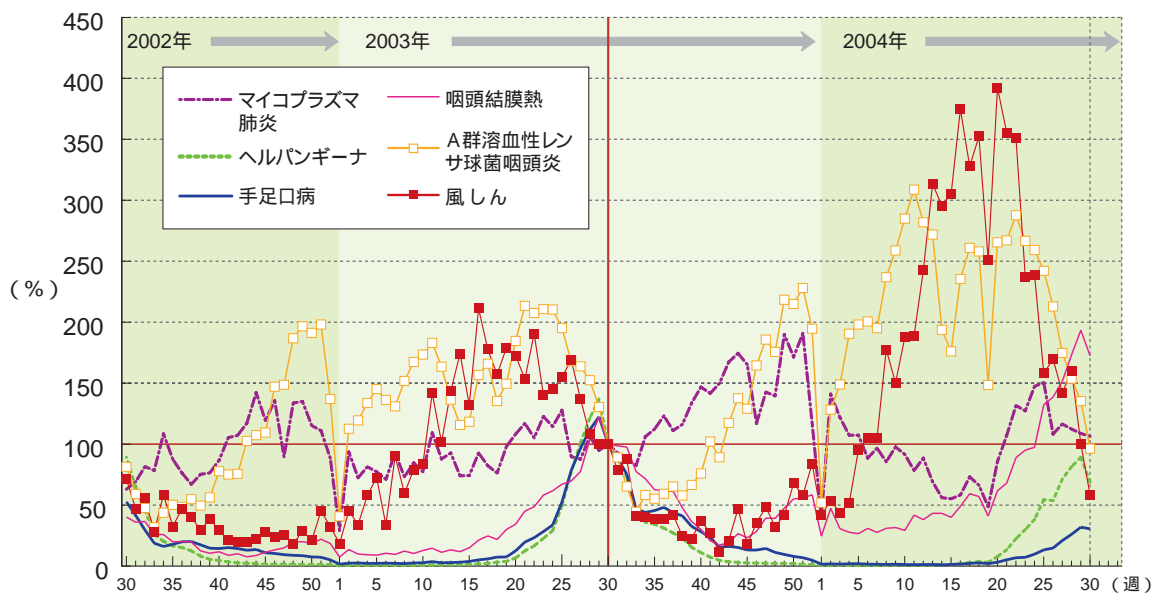


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

小児科定点報告疾患：咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第11週から増加傾向が認められ、第25週には過去10年間の全ての週と比較して最高値となった。その後、第29週まで最高値を更新し続けたが、第30週は減少した。都道府県別では北海道(2.2)、福井県(2.0)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第23週から減少し続けており、第30週も減少した。都道府県別では山形県(1.8)、鳥取県(1.7)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第12週から減少傾向が続いており、第30週も微減した。都道府県別では福井県(6.7)、大分県(5.8)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第20週から第29週まで緩やかに増加し続けたが、第30週は微減した。都道府県別では兵庫県(3.8)、福岡県(3.3)、大分県(3.3)が多い。風しんの定点当たり報告数は微減し、都道府県別では18都道府県から報告があったが、いずれも0.1以下であった。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、第26週を除き、第20週から第29週まで増加し続けたが、第30週は減少した。都道府県別では山形県(7.1)、山口県(6.0)が多い。麻しんの定点当たり報告数は前週と同値で、第1週から継続して、過去10年間の当該週と比較して最低値を示している。13都道府県から報告があったが、いずれも0.1以下であった。RSウイルス感染症はゼロ報告を含めて31都道府県から報告がなされ、報告数は合計15例であった。

基幹定点報告疾患：無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では滋賀県(1.1)、島根県(0.9)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は第20週から増加傾向が認められ、第25週をピークに減少傾向がみられており、第30週も微減した。しかし、第22週からは過去5年間の当該週と比較して最高値を示している。都道府県別では秋田県(1.0)、福島県(1.0)が多い。

図 . 主要疾患の過去2年間の週別定点当たり報告数の動き(第30週)



2003年第30週の定点当たり報告数を100%として各週の報告数値を換算し、主要疾患の過去2年間の増減を表している。



注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は感染症法に基づく3類感染症として、患者または無症状病原体保有者について、診断した医師は届け出が義務づけられている。無症状病原体保有者は、食品産業従事者の定期的検便によって偶然発見される場合もあるが、探知された患者と食事を共にした者や接触者の調査などによって発見される場合が多い。

2004年第30週の報告数は99例で、石川県から、高校の修学旅行に関連した73例の報告があった第29週と比較して、減少した(図1)。また、第30週までの累積報告数は1,455例で、過去3年間の同週までの累積報告数(2001年2,030例、2002年1,555例、2003年1,103例)と比較すると2002年と同程度で、2003年よりは多い。第30週までの累積報告数を都道府県別にみると、石川県(140例)、東京都(116例)、大阪府(114例)、岡山県(99例)が多い(図2)。第30週に限ると、大阪府(11例)、宮城県(10例)が多く(図3)、宮城県からの報告の一部は、保育所でのO26 VT1による集団発生に関連した報告であった。

第30週までの累積報告数を血清型・毒素型別にみると、O157 VT1・VT2 471例(32%)、O157 VT2 328例(23%)、O26 VT1 269例(18%)の順に多い。また、年齢群別(0～69歳までは10歳毎、および70歳以上)にみると、10歳未満539例、10代287例、20代210例、30代113例、40代81例、50代98例、60代59例、70歳以上68例となっている。

第29週の報告遅れ分として、2004年に入って初めての死亡例(70代、女性)の報告が香川県からあった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2で、溶血性尿毒症症候群(HUS)の発症後、多臓器不全により死亡している。また、HUSは2004年第30週に3例報告があり、累積で23例の報告となった。それらの原因菌の血清型・毒素型別では、O157 VT2(10例)、O157 VT1・VT2(9例)、O26 VT1・VT2(2例)、その他2例であった。また、年齢群別では10歳以下が17例(うち、5歳以下は14例)、60代1例、70歳以上5例であった。性別では男性6例、女性17例と女性に多かった。死亡例やHUSの合併については、届け出時点以降での発生が十分反映されていない可能性があり、このような発生があった場合には修正報告していただくことをお願いしている。

例年報告のピークは夏季にあるので、一層の注意が必要である。また、本年においても、保育所などに関連した集団発生の報告が散見されている。保育所などでの人から人への感染を防ぐために、普段からの手洗い(特にオムツ交換時)、園児への排便後・食事前の手洗い指導を徹底することが重要である。さらに、夏季には簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。

* 病原体情報については7ページを参照して下さい。

図1. 腸管出血性大腸菌感染症(無症状病原体保有者含む)の年別週別発生状況

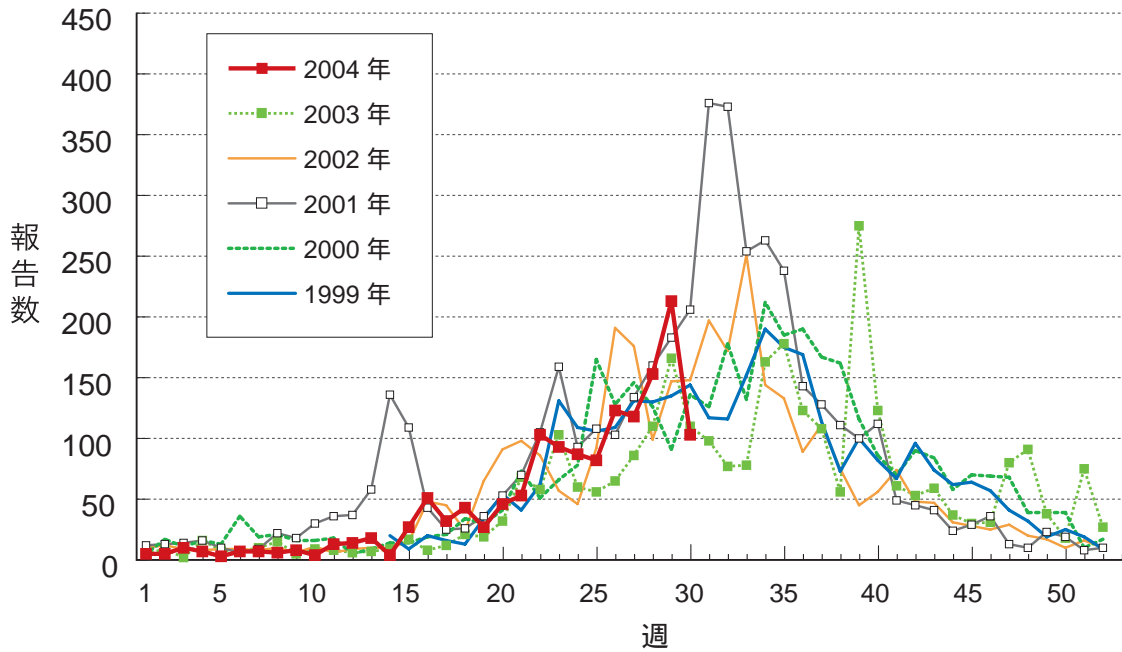


図2. 腸管出血性大腸菌感染症(無症状病原体保有者含む)の都道府県別発生状況(2004年第1～30週の累積)

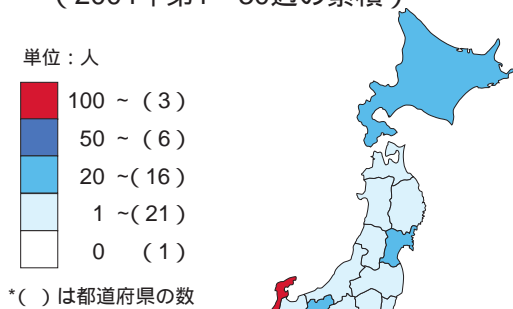
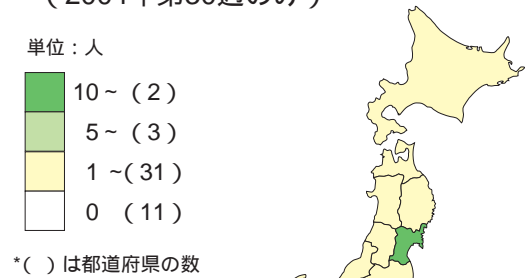


図3. 腸管出血性大腸菌感染症(無症状病原体保有者含む)の都道府県別発生状況(2004年第30週のみ)





病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2004年7月30日現在報告分)

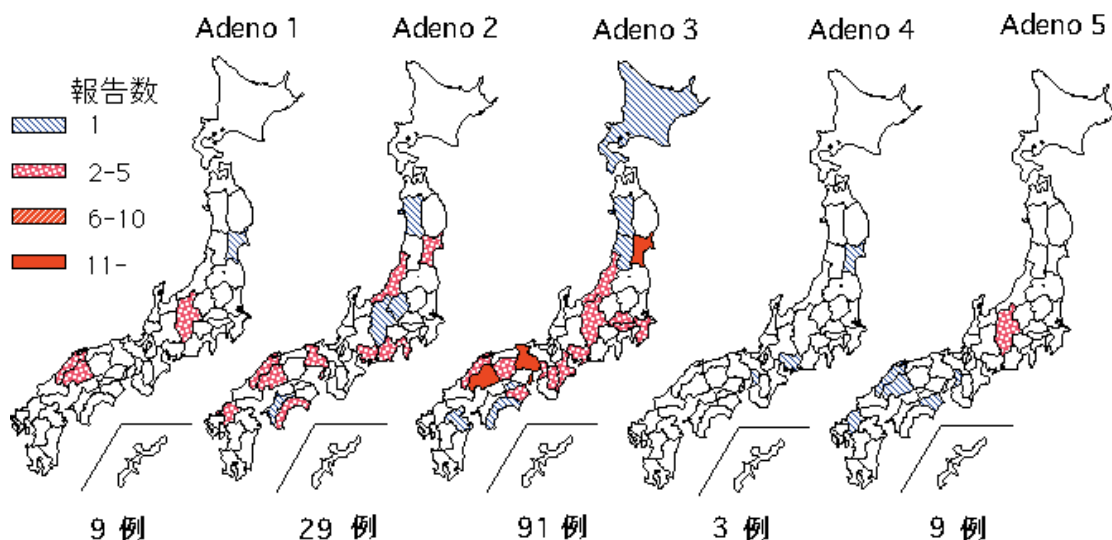
咽頭結膜熱患者から検出されているアデノウイルス 2004年

これまでに計143件のアデノウイルスが報告されており、そのほとんどは咽頭ぬぐい液(133)から検出されている(その他に糞便9、結膜ぬぐい液5、喀痰・気管吸引液1)。このうちアデノウイルス3型(Ad3)の報告が、北海道から大分県までの21都道府県から91件(兵庫県23、宮城県11、広島県11、千葉県5、長野県、愛知県、島根県、徳島県各4など)で最も多い。次いでAd2が13県から29件(兵庫県5、宮城県4、静岡県、高知県各3など)、Ad1が9件(広島県4など)、Ad5が9件(長野県4など)、Ad4が3件、Ad6が2件報告されている。

アデノウイルス検出例の年齢分布は、Ad3では4歳19、3歳14、5歳12の順で、4歳をピークとして乳児～学童までの幅広い年齢から検出されているのに対し、Ad2は1歳14をピークに、0～3歳が25(86%)と、ほとんどが乳幼児からの検出である。

都道府県別咽頭結膜熱患者からの主なウイルス検出状況、2004年

(病原微生物検出情報：2004年7月30日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

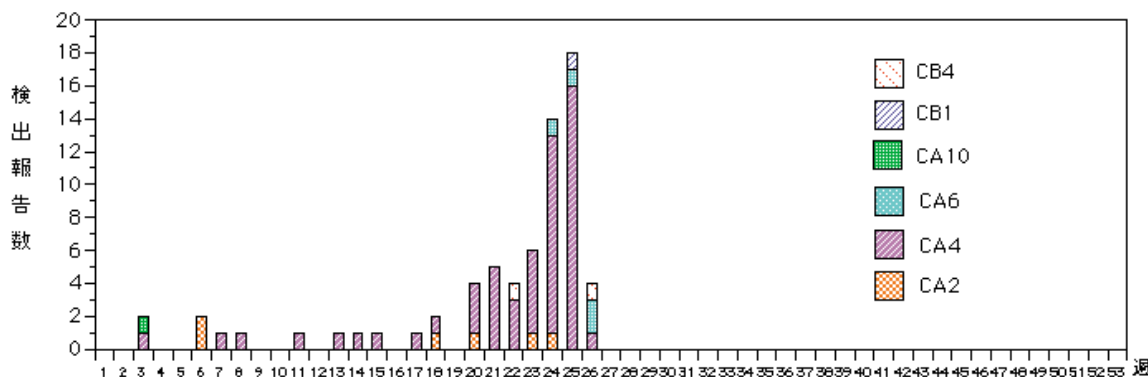
ヘルパンギーナ患者から分離されているウイルス 2004年

本年(2004年)はA群コクサッキーウイルス(CA)4型が、年初から第19週まで断続的に9件が報告されていたが、第20～25週(5/10～6/20)の週別報告数は3、5、3、5、12、16と増加している。ほとんどがCA4の報告であり、これまでに15都府県から計54件(大阪府10、愛知県8、奈良県7、島根県5、徳島県5、愛媛県5など)が報告されている。CA6が第24～26週に4件(長野県4)報告されている。CA2が6件(秋田県2、愛媛県、福岡県、島根県、熊本県各1)、昨年(2003年)最も報告の多かったCA10は第3週に高知県から1件報告されているのみである。この他に、B群コクサッキーウイルス(CB)が5件(4型2、1型1、3型1、5型1)、エコーウイルス(E)7型が1件(山形県)報告されている。

CA4検出例の年齢は、1歳が14(26%)で最も多く、0～5歳で48(89%)と低年齢層からの分離がほとんどである。

週別ヘルパンギーナ患者からの主なコクサッキーウイルス分離報告数、2004年

(病原微生物検出情報: 2004年7月30日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2004年

検出総数は302件で、うちO157が217件、O26が53件、その他の血清型が32件報告されている。第24～30週(6/7～7/25)の週別報告数は、O157が17、13、22、21、10、3、3、O26が6、2、3、2、2、4、0である。第28週(7/5～)以降では、O157が第28週に岐阜県から3件(すべてVT2)、熊本県から3件(同一家族内、すべてVT1&2)、宮城県から2件(いずれもVT2)、福岡県から2件(VT2が1、VT1&2が1)、第29週に宮城県から1件(VT1&2)、徳島県から1件(VT1&2)、福岡県から1件(VT2)、第30週に宮城県から1件(VT1&2)、徳島県から1件(VT1&2)、富山県から1件(VT1&2)、O26が第28週に宮城県から1件(VT1)、福島県から1件(VT1)、第29週に宮城県から3件(同一家族内、すべてVT1)、福岡県から1件(VT1)が報告されている。この他に、第29週に福岡県の家族内事例からO111が2件(いずれもVT1&2)報告されている。



アデノウイルス11型による集団発生事例 - 千葉県

アデノウイルス11型(Ad11)はB亜群に属するウイルスで、急性出血性膀胱炎の起因ウイルスとして知られているが、呼吸器症状での集団発生の報告は、1969年にスペインの軍隊新兵で発生した事例の他にはほとんどない¹⁾。

今回、県内東部の職業学校および南部の高校において、Ad11による2件の集団発生事例を経験したので報告する。

事例1: 2004年5月24日、県東部A市の全寮制の職業学校(5/24現在、学生471名、職員70名、年齢18歳以上、4/1と5/6に新入校生があった)より所轄保健所に、「伝染性単核症の診断を受けた学生があり、他にも40名ほど具合の悪い人がいる」との連絡があり、調査が開始された。調査の結果、発症者の主な症状は、発熱、咽頭痛、咳、頭痛、全身倦怠感であり、アデノウイルス抗原検出用簡易キットで陽性となった者が複数いることがわかった。

病原体検索として、5月28日に採取した咽頭ぬぐい液10検体について、アデノウイルスをターゲットにしたPCRおよびウイルス分離(CaCo-2細胞、HeLa細胞)を行った。PCRは、AllardらのHexonに設定したプライマー²⁾を用いた。10検体中7検体が陽性であり、ダイレクトシークエンスの結果、Ad11またはAd35であることが示唆された。ウイルス分離では、10検体中7検体がCaCo-2細胞でのみ分離された。中和試験の結果、抗Ad11血清で中和されたが、交差反応性を考慮し、感染研より分与を受けた抗Ad35血清を用いて中和試験を実施した。その結果、交差反応は否定され、Ad11であることが確認された。

最終的に、4月上旬から始まった学校内の感染は発症者数391名を数え、6月中旬に終息した。

事例2: 同年5月31日、県南部B市の高等学校(一部寮制、生徒1,143名、職員70名)の生徒が40 近くの発熱を継続し、医療機関を受診した。同校に同じような生徒が20人以上いるとの報告により、医師が所轄保健所に状況提供を求めた。これを受け、所轄保健所による調査が開始された。主症状は発熱、咽頭炎、咳であり、空手部、柔道部、剣道部、相撲部に特に患者が多かった。疫学的な絞り込みからウイルス感染が疑われ、病原体検索を行った。

患者が発病し学校医を受診した時点で咽頭ぬぐい液を採取し、9検体(6月20日～28日採取)が得られた。ウイルス分離は3種類の細胞(CaCo-2細胞、HeLa細胞、Vero細胞)を用いて行った。これと同時に、アデノウイルスをターゲットにPCRを実施した。ともに9検体中5検体が陽性であり、陽性検体は一致した。ウイルス分離ではCaCo-2細胞で速やかにウイルスが分離され、中和試験による同定の結果、Ad11であることが確認された。

最終的に、5月中旬から始まった流行は発症者数261名で、7月上旬に終息した。

これらの状況からA市の小児科病原体定点、隣接するC町の基幹病原体定点に対して、咽頭炎や扁桃炎の患者の咽頭ぬぐい液の採取を依頼した。38検体のなかから、現在分離されているウイルスはAd1、Ad2、Ad3、Ad4、コクサッキーウイルスB1であり、Ad11は分離されていない。

しかしながら千葉市においては、2004年3月に採取された小児の咽頭扁桃炎での咽頭ぬぐい液からAd11を分離している。また、SRLの「LABEAM 16(4), 2004」における2003年1～12月の分離株数の報告では、Ad11は全国においても千葉県においてもAd3に次いで多く分離されているが、そのほとんどが尿からの分離である。

現在のところ、県内でのAd11の侵淫状況は明らかでなく、調査を継続中である。

今回の集団発生は終息までに、それぞれ11週と8週を要している。長期間におよんだ理由としては、届け出の遅れもさることながら、アデノウイルスの特性であるウイルス排泄期間の長さ³⁾、環境中での安定期間の長さ⁴⁾によって感染源が長く保持されたことや、集団の免疫状態なども関与していたと考えられた。これら2事例の関連性は不明である。

稿をまとめるにあたり、貴重な抗血清を分与して頂いた国立感染症研究所・稲田敏樹先生、Ad11臨床分離株についての情報提供をして頂いた千葉市環境保健研究所の先生、検体採取して頂いた医療機関の先生、疫学情報を提供して頂いた関係保健所の皆様に感謝する。

文 献

- 1) Hierholzer J.C. et al., Amer. J. Epidemiol. 99(6): 434-442, 1974
- 2) Allard A. et al., J. Clin. Microbiol. 39(2): 498-505, 2001
- 3) Murry et al., Medical Microbiology(4th Edition) 2002
- 4) Azar M.J. et al., Amer. J. Ophthalm. 121: 711-712, 1996

千葉県衛生研究所

小川知子 岡田峰幸 窪谷弘子 吉住秀隆 篠崎邦子 一戸貞人

(IASR2004年9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ヨーロッパにおけるダニ媒介性脳炎: 国別の基本情報

Eurosurveillance Weekly, Vol. 8/ Issue 29 2004年7月15日

<http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040715.asp>

Eurosurveillance Weeklyの2004年7月24日版では、チェコ共和国、リトアニア、ラトビアにおけるダニ媒介性脳炎(TBE)の概略を掲載した。今週〔2004年7月18日までの週〕のEurosurveillanceでは、TBE感染が繰り返るヨーロッパ内の他の諸国の概略情報を掲載する。各国の国立研究所のウェブサイトではさらに詳しいデータを記載しており、ヨーロッパにおけるTBEのさらに詳しい情報は、TBE国際科学ワーキンググループ International Scientific Working Group on Tick-Borne-Encephalitis(ISW-TBE)ウェブサイト(<http://www.tbe-info.com>)で参照可能である。以下の表には、各国における最近の報告患者数と発生率が示されている。データは各国当局と文献によるものである。

図 . ダニ媒介性脳炎の国別情報

国	最新データのある年	報告患者数	人口10万人対発症率
オーストリア	2003	87	1.09
チェコ	2003	-	5.9
デンマーク	-	-	-
フィンランド	2001	> 40	-
ドイツ	2003	276	-
ハンガリー	2001-2003	63 (年間平均)	-
ラトビア	2003	-	15.7
リトアニア	2003	763	22
ノルウェー	2003	1	-
ポーランド	2003	339	0.89
スロバキア	2003	74	1.38
スロベニア	2003	272	13.6
スウェーデン	2003	107	-

(International Scientific Working Group on Tick-Borne-Encephalitis ウェブサイト)

オーストリア:

髄膜脳炎はオーストリアでは届出感染症である。オーストリアでは2003年に87名のダニ脳炎(以下TBEと略す)患者が報告された。発生率は人口10万人当たり1.09であった。2001年には54名、2002年には60名の報告があった。〔訳注: 原文では“2002年に51名、2002年に60名”と2002年が反復していたが、<http://www.tbe-info.com>のデータを元に修正した。〕

TBEが最も流行している地域は、南部のSteiermark(Styria)とKärnten(Carinthia)である。患者は全員がワクチンを受けていなかったか、推奨されたスケジュールでの接種を受けていない人であった。過去5年間で、全国のワクチン接種率は79%から87%に上昇した。乳幼児と65歳

以上の高齢者の接種率は70%以下である。この高齢者の接種率の改善が、オーストリアでのTBE予防における大きな課題である。

ワクチンは無料ではないが、健康保険会社は費用の一部を負担している(地域によって異なる)。

デンマーク:

デンマークではTBEは届出感染症ではない。TBE感染リスクがある地区は、Bornholm島のみである。

Bornholmの住民や別荘所有者は、指定された道を外れて林や藪へ行くなどの活動を行う場合、ワクチン接種が推奨される。旅行者や学校の集会などの場合には、林の特定の場所で行われる活動に参加するのであれば、予防接種は必要ではないと考えられる。

フィンランド:

TBEはフィンランドでは報告義務がある。1990年代には年間に10～20名であった患者数が、2001年(人口520万人)には40名以上に増加している。感染確認患者の発生率は、フィンランドとスウェーデンの国境に位置するÅland島で最も高値を示した(年人口10万人当たり100名以上)。抗体価の分析によると、Åland島の住人は一生の間に、およそ5人に1人の割合で感染している。小児や青年のTBE感染はまれである。Åland島の住人以外に、毎年約10名のスウェーデン人がÅland島訪問後にTBEに感染している。TBEの汚染地はその他にもあり、たとえばTurku群島、フィンランド南東部のKokkola周辺の一部地区や、ヘルシンキの近くのIsosaariなどである。

国立公衆衛生研究所(KTL)は、既存の流行地域の在住者および長期滞在者で7歳以上の者については、TBEワクチン接種を推奨している。

しかし、TBEワクチンはフィンランドの定期予防接種に含まれていない。KTLのTBEワクチン小委員会は最近、ÅlandでのTBEの疾患負荷、費用対効果を含む様々なワクチン戦略のインパクト、ワクチンを無料で接種すべきかどうかについて、などの解析を終了した。

ドイツ:

TBEはドイツでは報告義務がある。2003年には、276名のTBE患者が報告された(2002:239名、2001:256名)。これらの患者は主にドイツ南部のBaden-Württemberg州(42%)とBavaria州(38%)で発生した。

ドイツ国内の郡は、TBEのリスクに応じて3段階に分類される。1984年から2003年の間に、5年間に25名以上のTBE患者が発生した場合「ハイリスク地域」に、1年間に2名以上の患者が発生するか、5年間に5名以上の患者が発生した場合「リスク地域」に分類される。ワクチン接種を受けていない森林労働者での検討で、TBE血清抗体陽性率の高さに基づき、TBEの「地域流行地域」に指定される。

2003年には、新しく3カ所の地域が「リスク地域」に指定された。ドイツ国内の440郡のうち、74郡が現在TBEの「リスク地域」に、9郡が「ハイリスク地域」に分類されている。それらはBaden-Württemberg州(30)、Bavaria州(45)、Hesse州(4)、Thuringia州(3)、Rhineland-Palatinate州内にある。さらにBaden-Württemberg州の5郡が抗体陽性率の調査に基づき、TBEの「地域流行地域」に分類されている(地図参照: http://www.rki.de/INFEKT/EPIBULL/2004/FSME21_04.PDF)。

ワクチン接種常任委員会(STIKO)は、TBEの「リスク地域」および「ハイリスク地域」でダニに暴露される危険のある人に対して、TBEワクチンを推奨している。

ハンガリー:

TBEは1977年以来報告が義務付けられており、データは“ Béla Johan ”国立疫学センター(旧国立公衆衛生研究所)で集められている。1958年以来、同研究所ウイルス部では、無菌性髄膜炎と脳炎の患者検体で一律にTBE検査が行われている。同部はハンガリーで唯一のTBE診断機関である。1977年から1996年の平均発生率は人口10万人当たり2.5名(範囲1.3～3.8)であり、1981年から1990年の間に最も高い発生率が認められた。1997年から2000年の間に、登録/診断されたTBE患者の有意な減少がみられ、発生率は2000年には人口10万人当たり0.5人であった。2001年以後、発生率は再度緩やかに上昇している。ここ3年間に報告された年間患者数の平均は63名である。

ハイリスク地域はZala、Somogy、Vas(ハンガリー西部)、Nógrád(ハンガリー北部)であり、既知の流行地域(Transdanubia州中央部と西部、中央山脈北部)内に位置する。

1977年にハイリスクグループ(林業および農業従事者など)に対するワクチン接種が導入された。州が組織し管理する予防接種キャンペーンにより、接種が行われている。1991年以来、TBEワクチンはだれでも接種可能であり、薬局で購入可能である。そして、雇用者は被用者に確実に予防接種を行わなければならない。現時点では予防接種率の詳細なデータはないが、概算で人口の5%が接種しており、そのほとんどがハイリスク地域の住民である。

ノルウェー:

ノルウェーでは、TBEを含む脳炎患者は全例報告が義務づけられている。2003年には1例のTBE患者が報告された。ノルウェー国内で感染した患者としては、過去に8例が報告されているのみである。最初の例は1998年に確認された。全例が南部沿岸部の限られた地区内で感染しており、4例はTromsø市で診断された。Tromsøの保健センターに来所した一般患者での研究では、TBEV抗体陽性率は2.4%であった。この地域はおそらく、ノルウェーでのTBEの小規模な中心地であると考えられる。さらに、1994年以来、TBE輸入例が2例報告されている。この2例は、スウェーデンとオーストリアの汚染地域で感染した。

ノルウェーでの発生率が低いため、ワクチンは現在、国内での感染予防対策としては推奨されていない。海外の森林部の汚染地域で野外活動を計画している旅行者にのみ、推奨される。

ポーランド:

ポーランドではTBEは報告義務があり、TBEは30年以上風土病として土着している。1993年以来、国内で報告された年間の患者数は、100名から350名であった。2002年には報告された患者数は126名(発生率は人口10万人当たり0.33)で、2003年には339名(人口10万人当たり0.89)であった。患者の80%は、リトアニアとベラルーシに隣接するポーランド北東部の2州で発生した。2番目の汚染地は、チェコ共和国に隣接するポーランドの南西部であった。

汚染地域に在住のハイリスクグループと、汚染地に出かける旅行者は、ワクチンの3回接種が推奨されている。特定のリスクグループ(林業、兵士、木工業の被用者)では、事業者負担の定期接種キャンペーンの元、接種が行われている。

スロバキア:

スロバキアでは、TBEは報告が義務づけられている疾患である。国内の報告患者数は過去10年間で、年間54～101名である。2002年には報告された患者数は62名(発生率:人口10万人当たり1.15)で、2003年は74名(同人口10万人当たり1.38)であった。報告された患者の一部では、ヤギとヒツジの生乳(自家製)の飲用による感染であった。

1964～1997年に行われた、ダニおよび脊椎動物宿主(ヒトを含む)のTBEウイルス長期モニタリング調査により、37カ所の汚染地が明らかになった。

汚染地に在住または勤務しているハイリスクグループ、および汚染地を訪れる旅行者には、ワクチンの3回接種が推奨される。TBE汚染地での就労者のワクチン費用は、健康保険から払戻される。

スロベニア:

TBEとライム病はスロベニアの北部に常在しており、報告が義務づけられている。2003年には272名のTBE患者が報告され、発生率は人口10万人当たり13.6であった。2002年(262名)2001年(260名)にも同様の患者数が報告された。

早期診断、啓発キャンペーンに向けての努力がなされている。国立公衆衛生研究所が管理するワクチンキャンペーンが、毎年晩秋から春にかけて全国で実施されている。TBEワクチンは、汚染地で野外活動をする短期滞在者を含むすべての人に対し、保健省が接種を推奨しており、開業医(GP)や感染症専門医により接種が受けられる。

また、軍隊や農学部学生などを含む職業的に暴露される者は、接種が義務づけられている。予防接種費用は、学生のみ健康保険で負担される。これらの職業上暴露者、および学生での接種率は非常に高い(98%)。一般人の接種率は、残念ながら10%以下である。

スウェーデン:

スウェーデンではTBE感染は、感染症サーベイランスにおける検査室からの任意の報告である。国内でのTBE流行状況をより詳しく把握するために、各検査施設から質問票が医師に送付される。その際医師は、推定される感染場所とダニ刺咬についての情報提供を求められる。1980年代から1990年代前半にかけて、毎年50名から70名のTBE患者が報告された。患者の大多数は、病院での治療を通じて診断された。

1990年代末までに約100名の患者が毎年報告されたが、その約20%はプライマリヘルスケア(PhC)により治療された。この時期にTBEに関する一般の関心が高まった。このため、患者が実際に増加したのか、臨床的に認識が高まったことによる診断の増加か、検査件数が増加したことによるものかは不明である。PhCによって多くの患者が発見されたことは別にしても、ここ数年、以前には患者がとぎたま報告されていたのみの地域で、複数の患者が見つかっている。

2003年には、107名(男75名、女32名)のTBE患者が報告された。ほとんどの感染者は、Stockholm郡(56%)、Södermanland郡(15%)、Uppsala郡(6%)から報告された。Västra Götaland郡(Vänern湖の南部)では毎年5～10名が報告されている。毎年、残りの地域から散発的に患者が報告されている。予防接種は流行地域の住民と、夏季に流行地域に滞在するハイリスクグループに対して推奨されている。



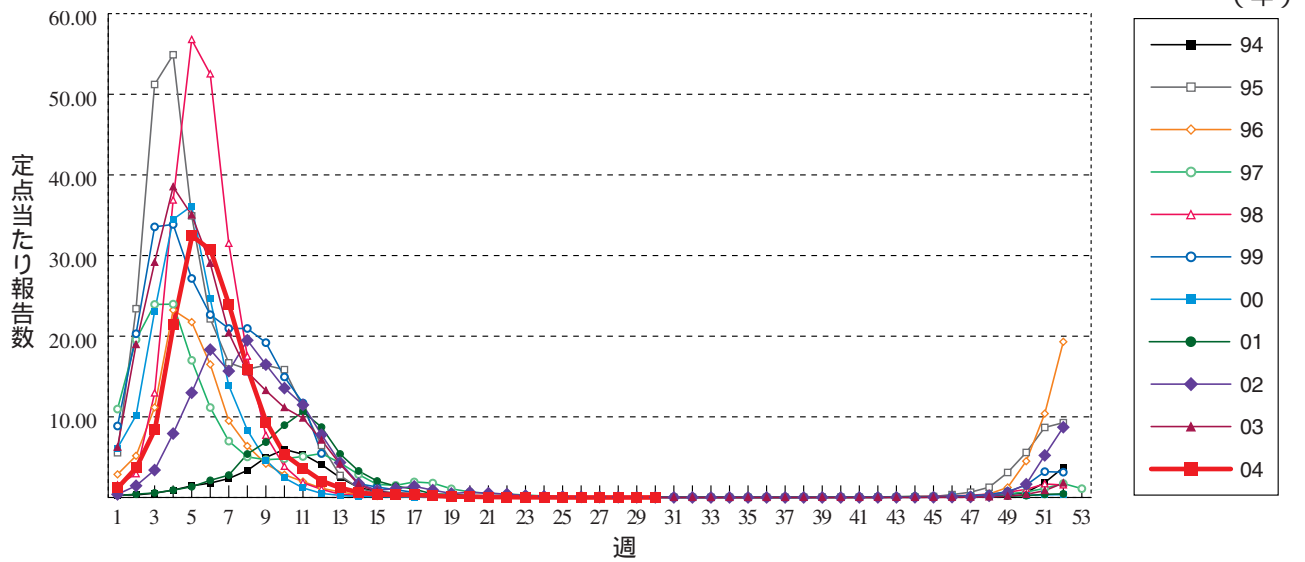
感染症の話

今週はお休みさせていただきます。
「感染症の話」過去の掲載分については
<http://idsc.nih.go.jp/kansen/index.html>
でご覧いただけます。

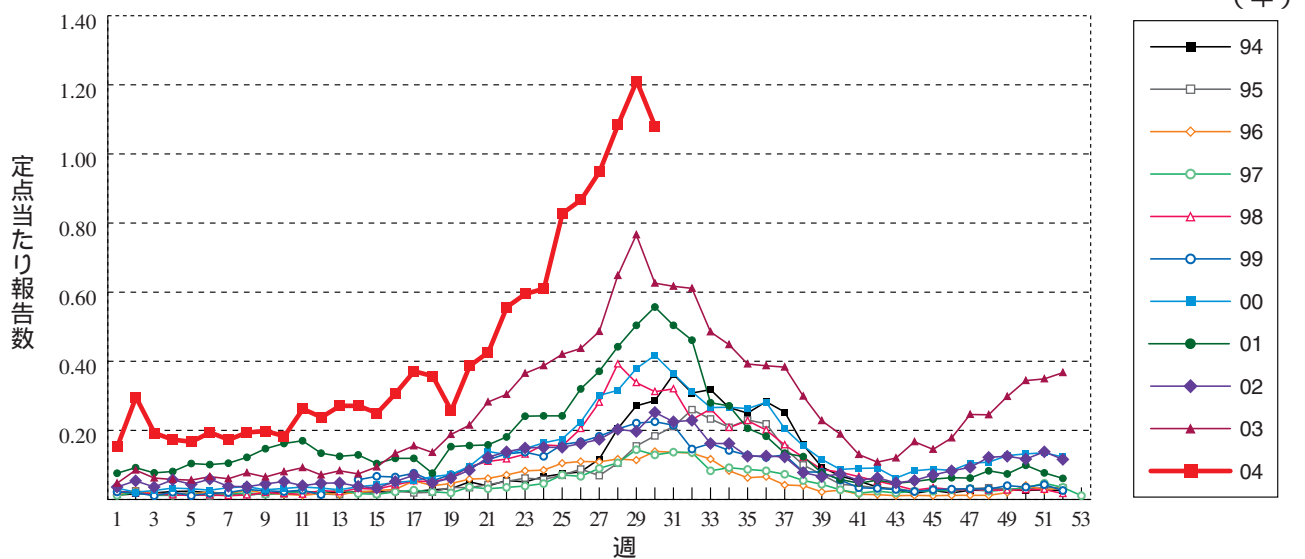


グラフ総覧(30週)

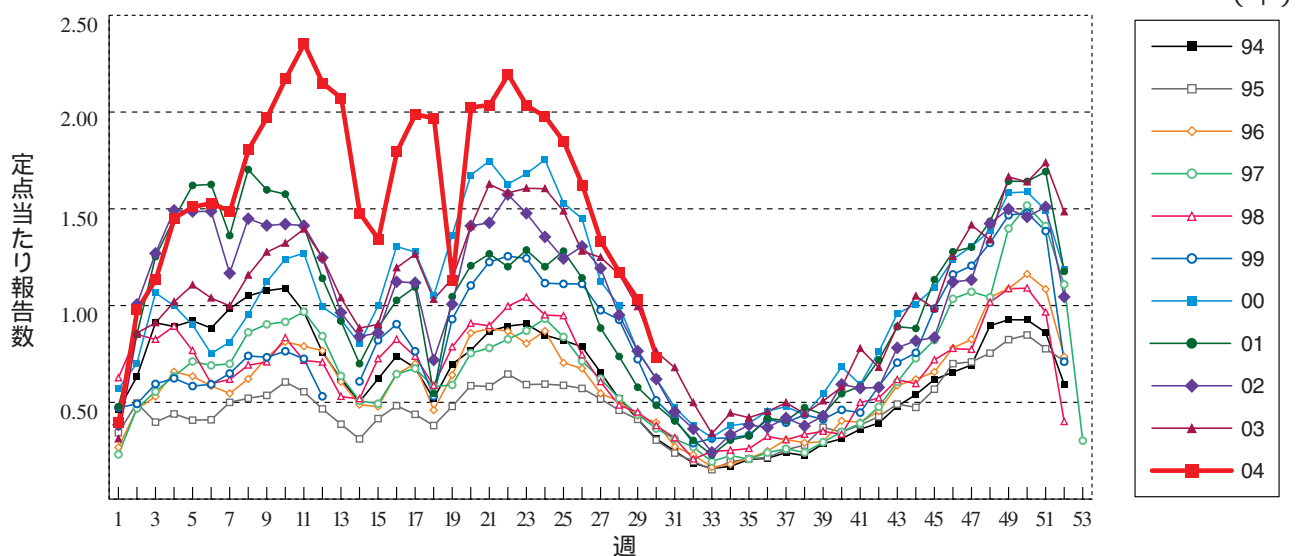
インフルエンザ



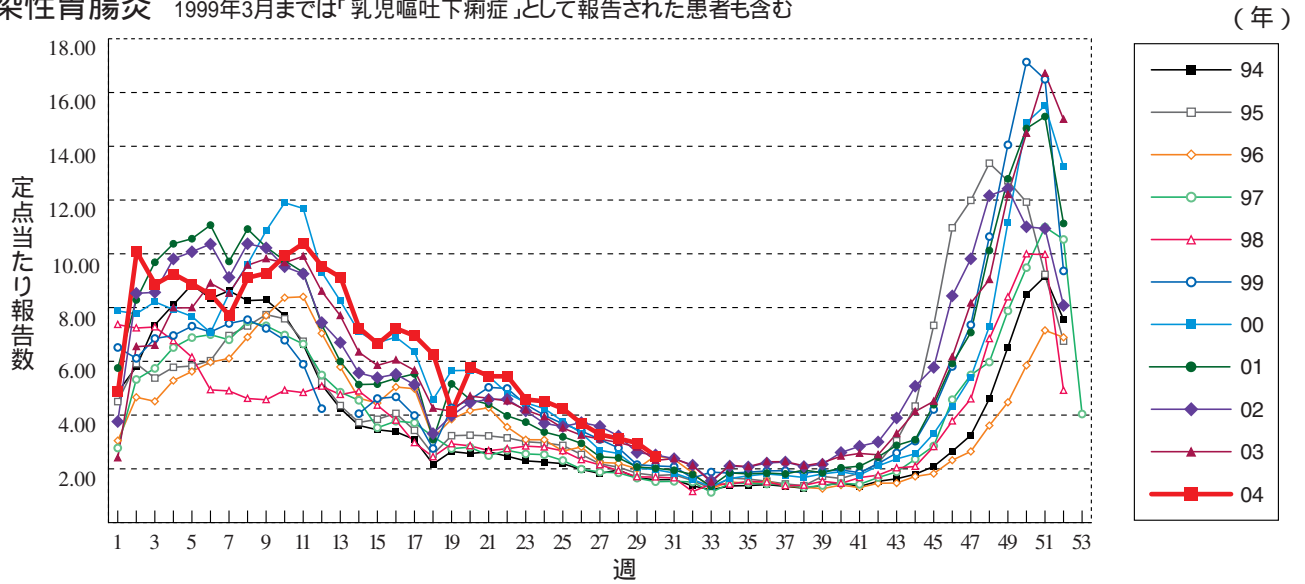
咽頭結膜熱



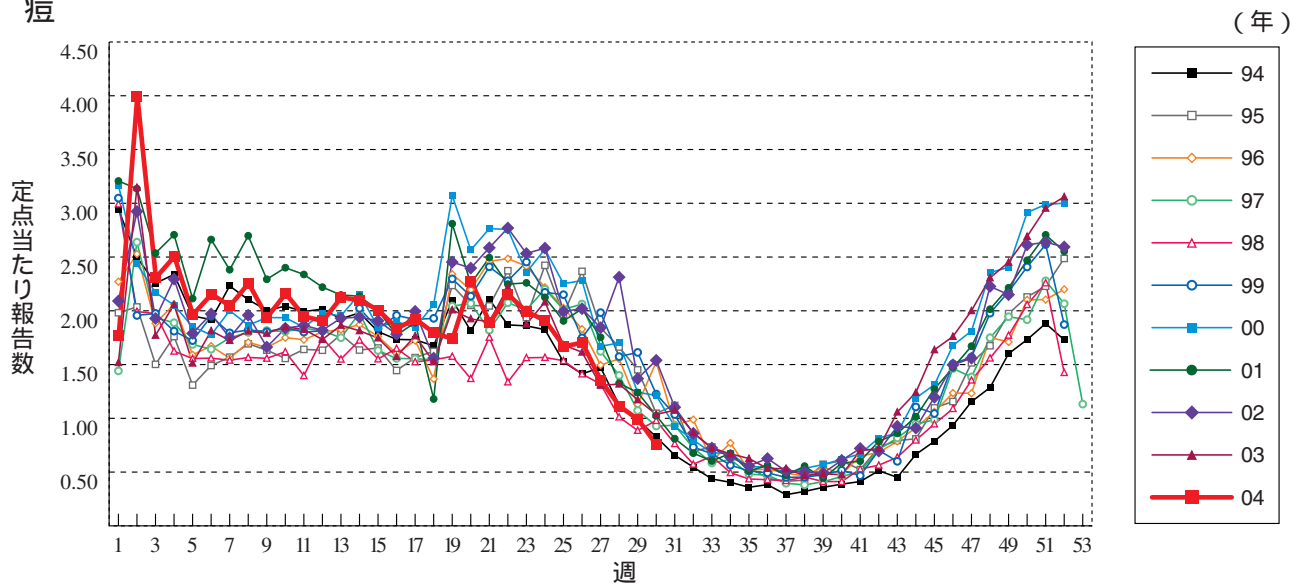
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



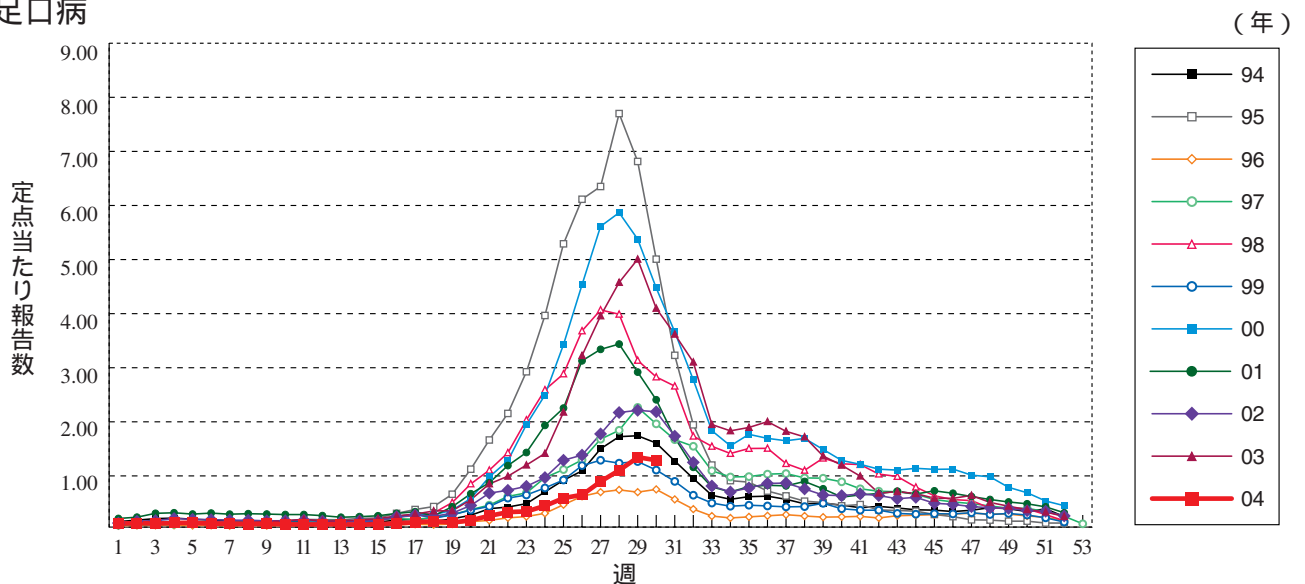
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



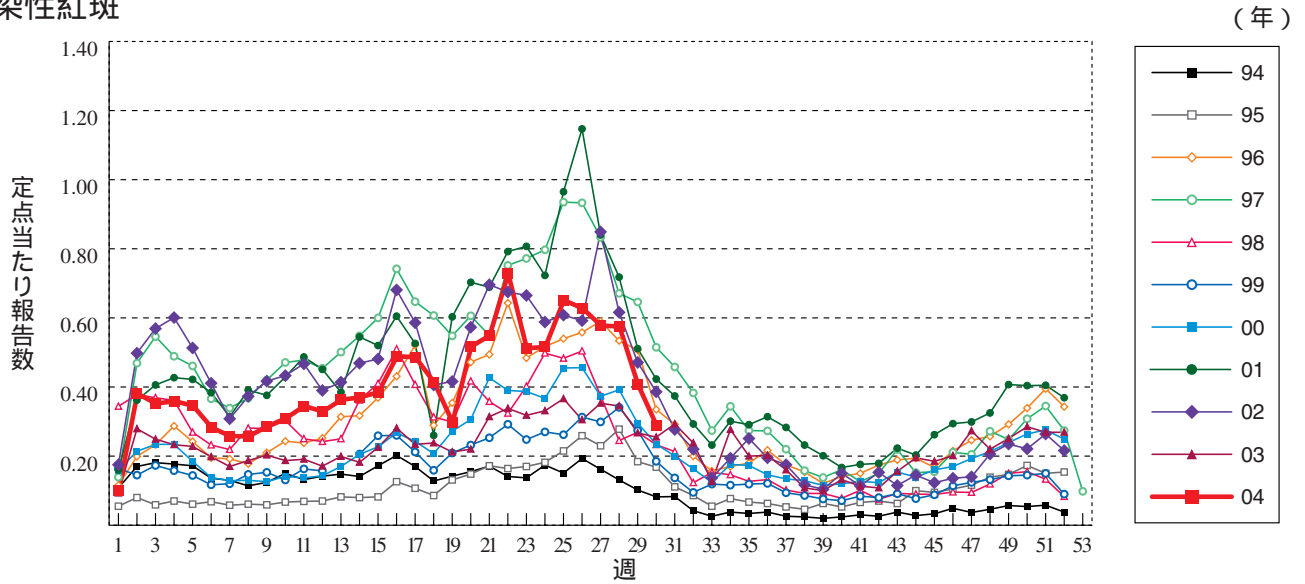
水痘



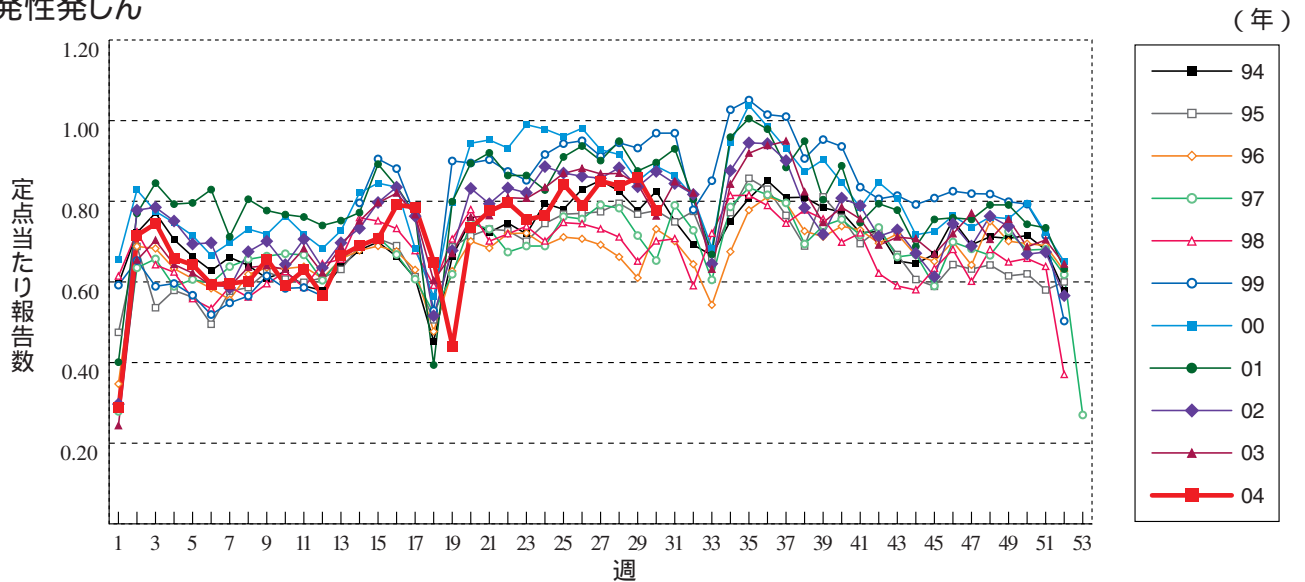
手足口病



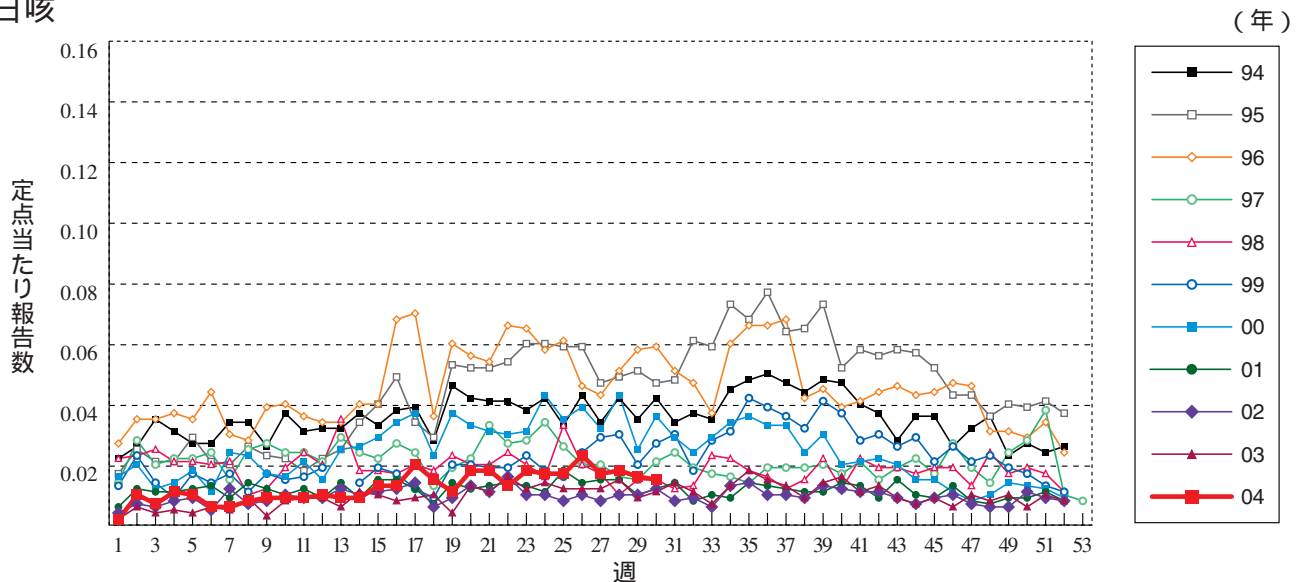
伝染性紅斑



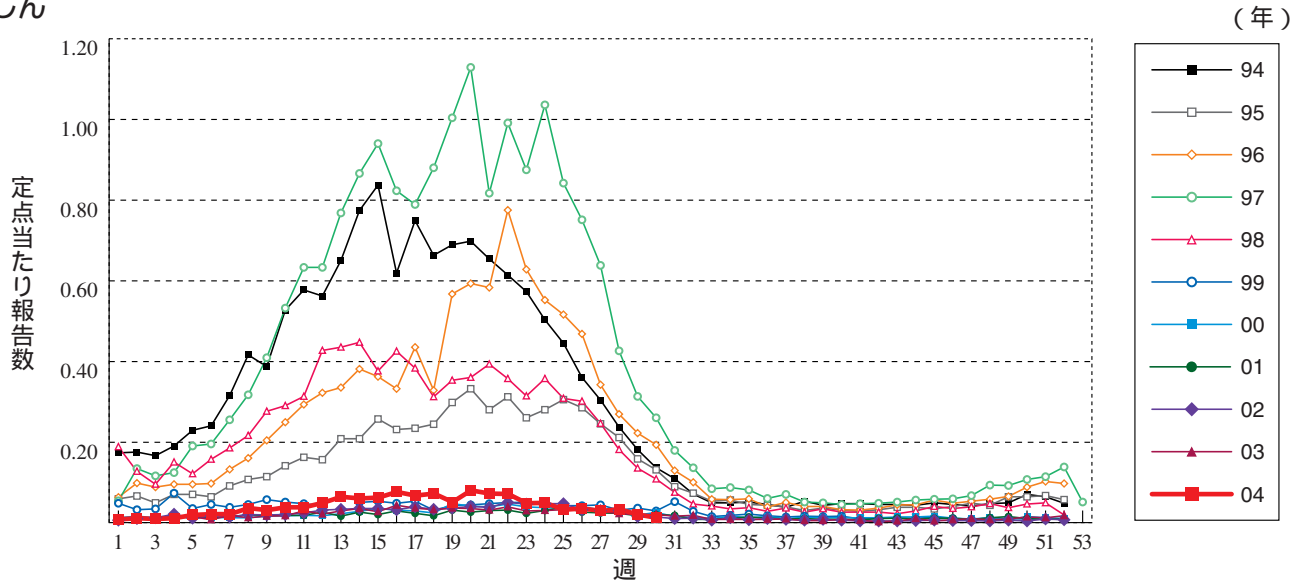
突発性発しん



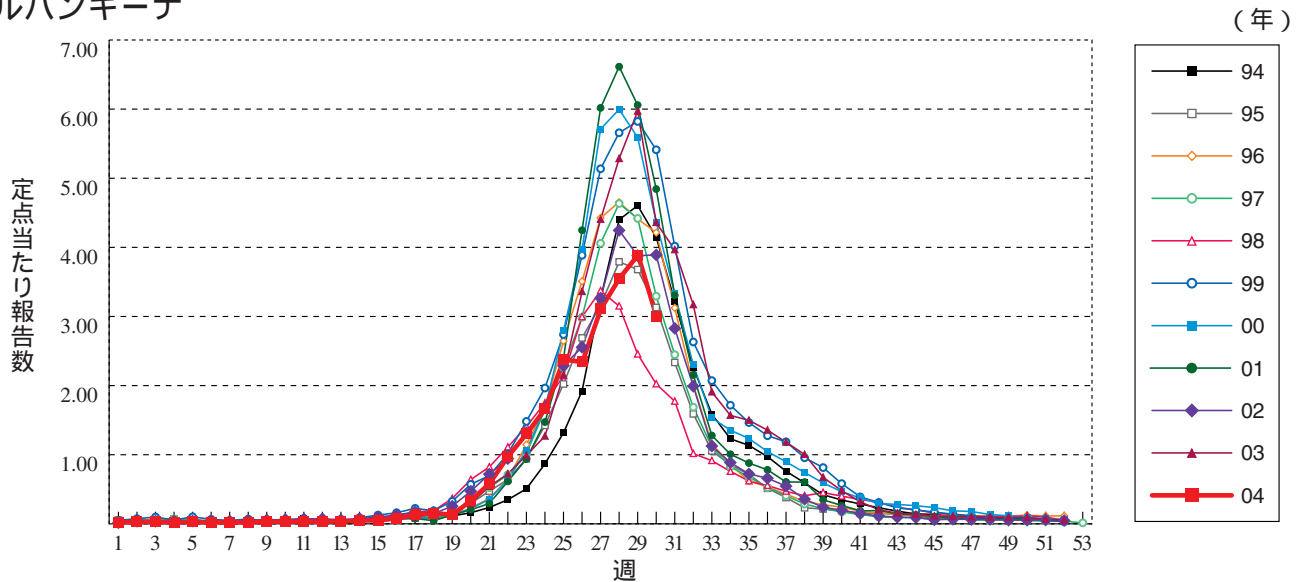
百日咳



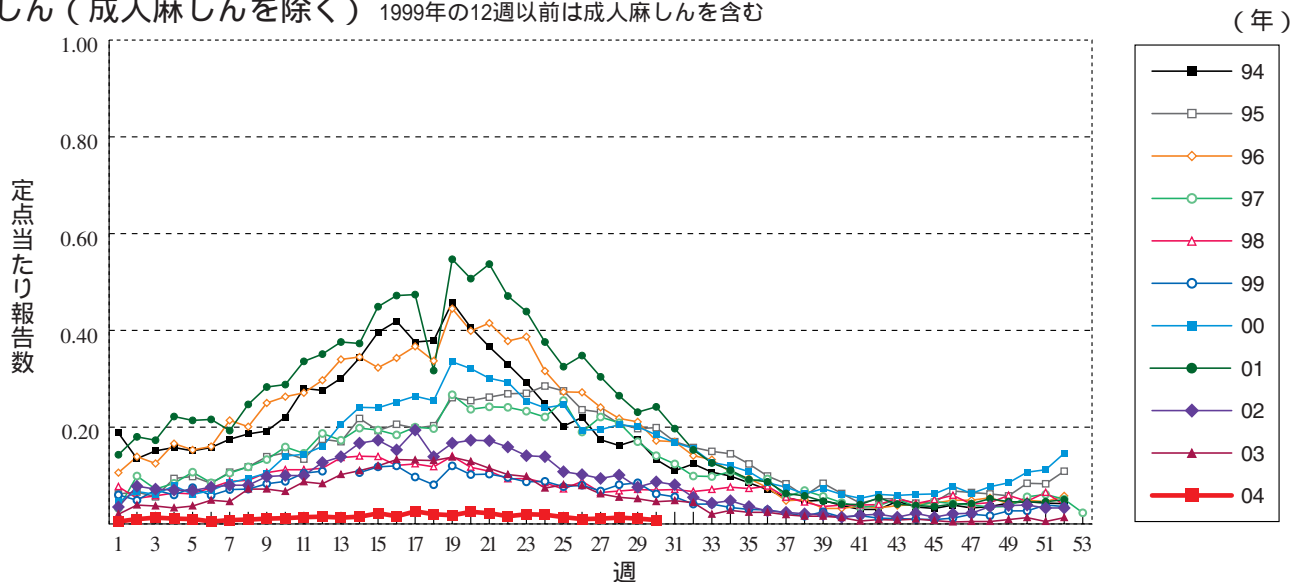
風しん



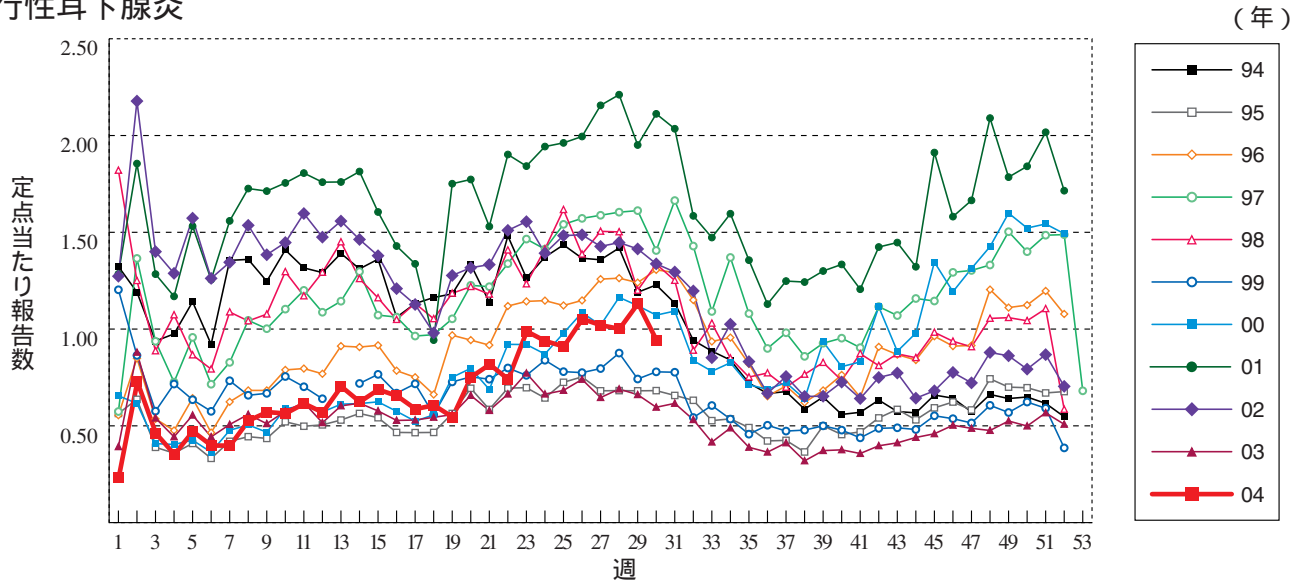
ヘルパンギーナ



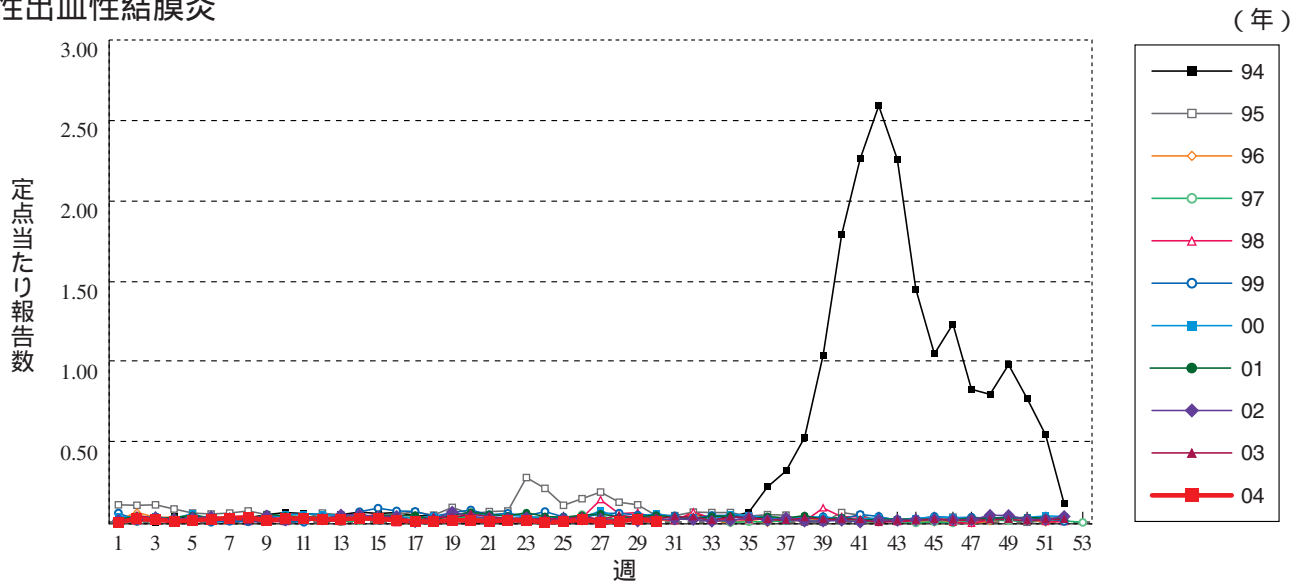
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



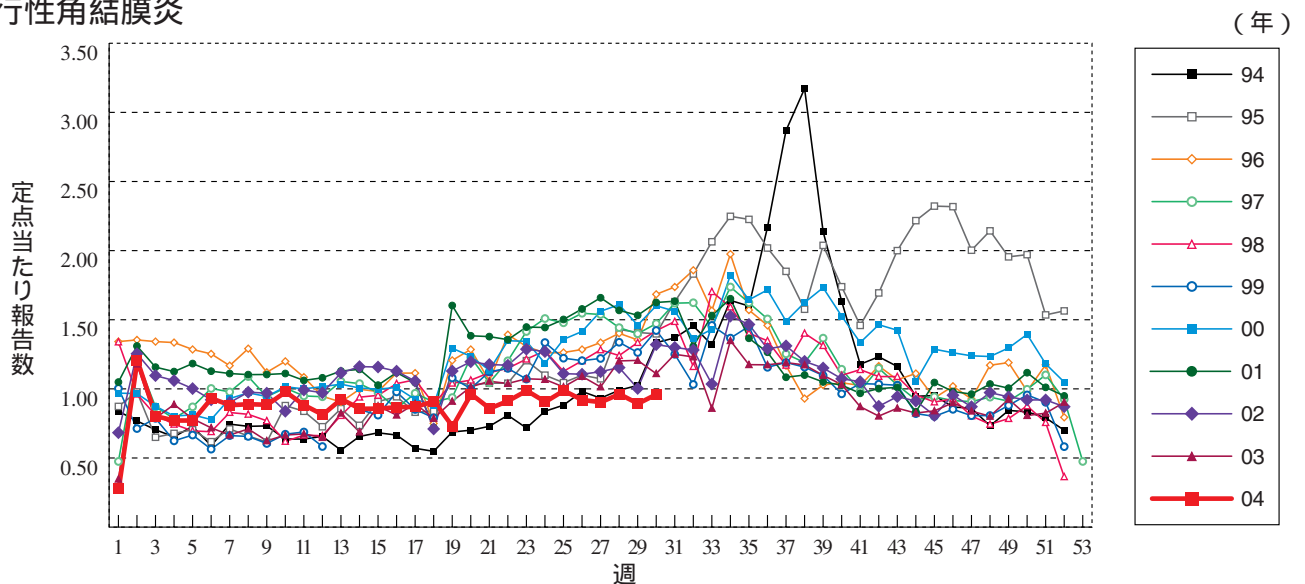
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

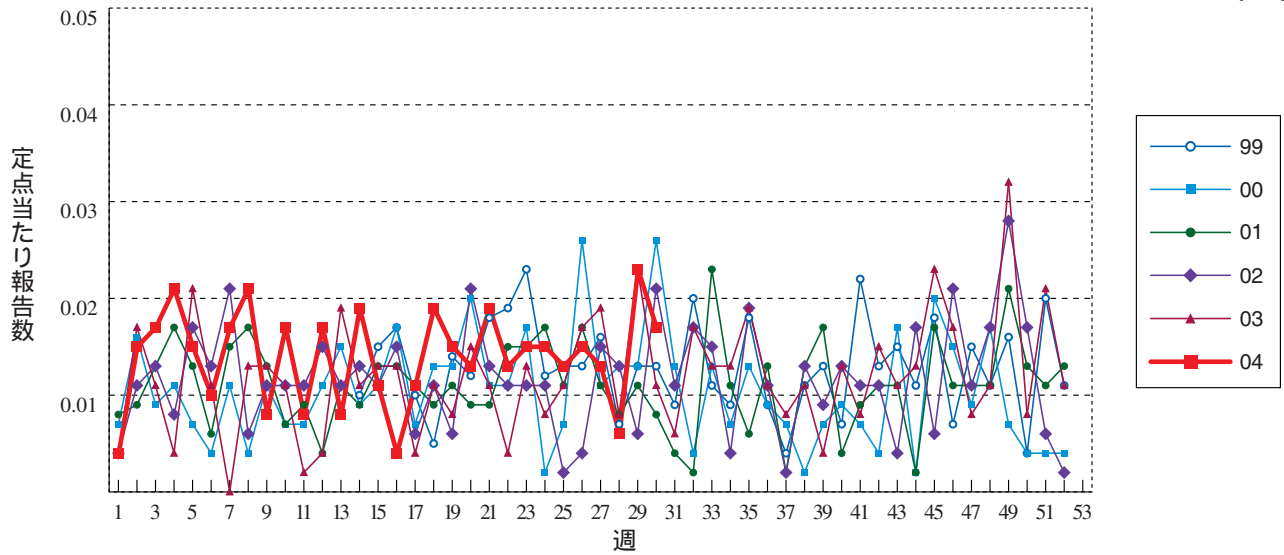


流行性角結膜炎



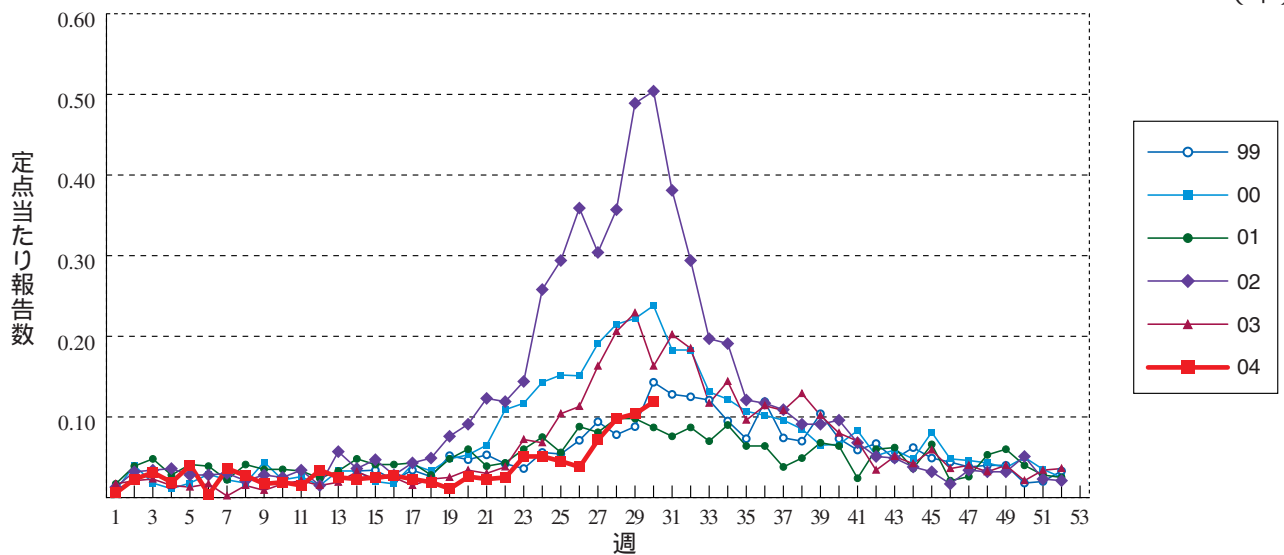
細菌性髄膜炎

(年)



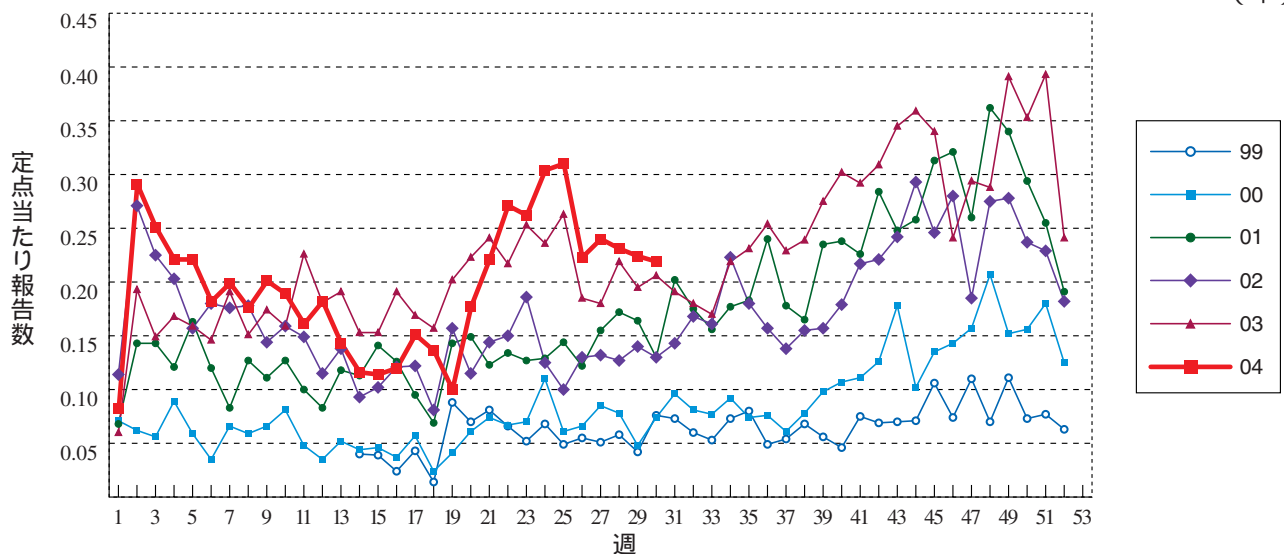
無菌性髄膜炎

(年)



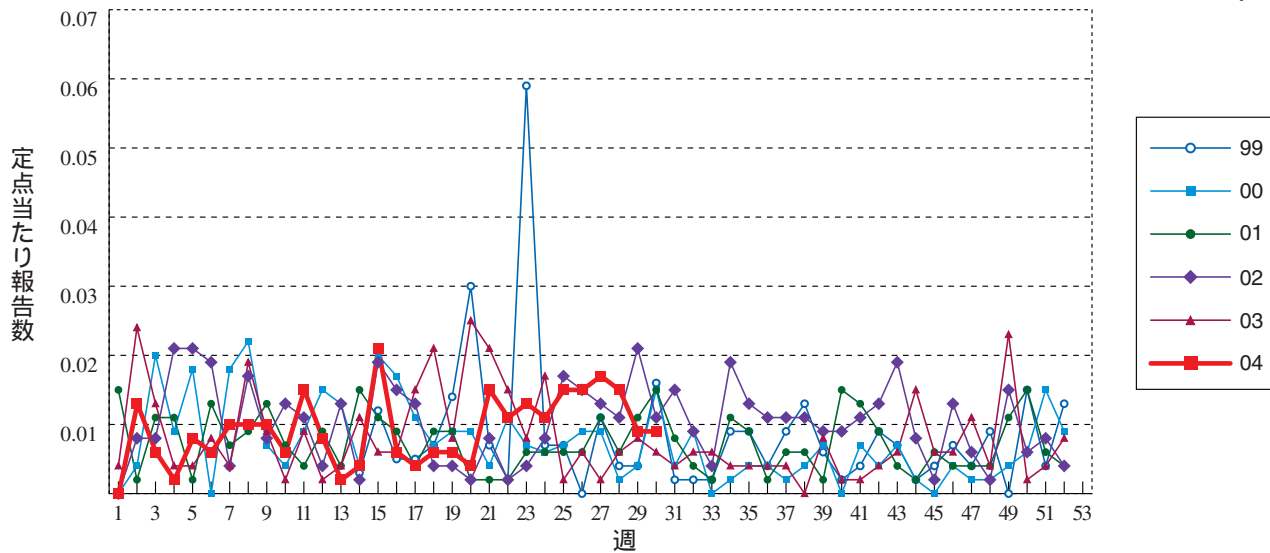
マイコプラズマ肺炎

(年)



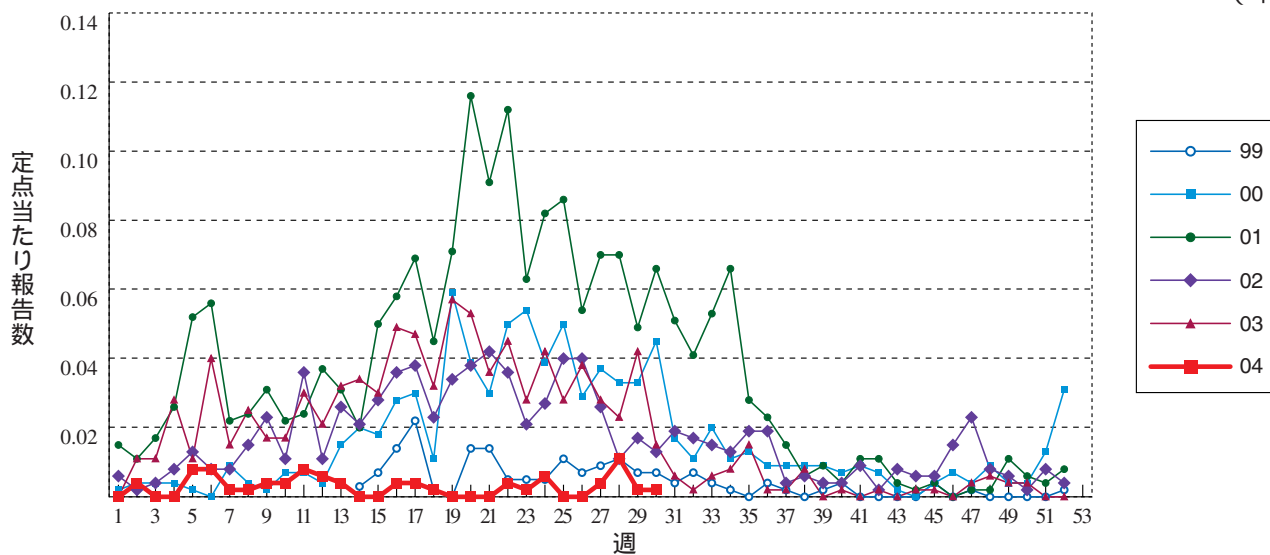
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





30週のデータ

注)表中の報告数は7月29日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成16年30週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	37	7	261	1	34	-	42
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	1	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	6	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	13	-	1	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	16	-	3	-	5
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	65	-	9	-	10
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1	3	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	4	-	2	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	15	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	-	1	-	4
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	30	-	3	-	2
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	10	-	3	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	7	-	1	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年30週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	99	1455	5	325	-	19	-	-	-	29	-	-	2	162
北海道	-	-	-	-	2	21	1	6	-	19	-	-	-	1	-	-	-	5
青森県	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	2	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	10	29	-	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	1	17	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	1	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	2	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	2	11	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	2	17	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	1	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	4	43	-	13	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
千葉県	-	-	-	-	4	63	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	7	116	1	78	-	-	-	-	-	2	-	-	1	29
神奈川県	-	-	-	-	1	23	-	18	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8
新潟県	-	-	-	-	4	14	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	1	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	2	140	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	19	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	4	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	26	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
静岡県	-	-	-	-	3	18	-	14	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	3	60	-	29	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
三重県	-	-	-	-	1	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	1	8	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	2	26	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大阪府	-	-	-	-	11	114	-	33	-	-	-	-	-	5	-	-	-	16
兵庫県	-	-	-	-	5	67	2	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
奈良県	-	-	-	-	3	31	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
和歌山県	-	-	-	-	-	7	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
鳥取県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	2	99	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
広島県	-	-	-	-	1	28	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
徳島県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	1	26	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	1	53	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
高知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	7	63	-	12	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-	14	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	34	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	2	32	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	2	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	1	20	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
鹿児島県	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	20	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年30週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	5	-	-	-	6	1	88	-	38	10	616	-	2	-	45	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	6	-	-	-	2	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	4	-	1	-	21	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	4	1	29	-	-	-	5	-	-
東京都	-	1	-	-	-	5	1	9	-	5	3	241	-	-	-	11	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	1	40	-	1	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	4	-	-	-	2	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	22	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	1	17	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	37	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	5	-	4	1	63	-	-	-	5	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	1	11	-	-	-	4	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	3	-	10	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年30週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	17	-	5	-	-	-	94	-	9	-	19	-	1	2	274	1	51
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	
青森県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	4	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	4	-	2	
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	5	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	3	1	3	
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	6	-	2	
東京都	-	4	-	3	-	-	-	5	-	7	-	-	-	-	1	37	-	1
神奈川県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	7	-	2	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2	
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	2	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	6	-	2	
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	18	-	1	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	8	-	1	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	39	-	2	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	9	-	1	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	1	-	1	
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	5	-	1	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	6	-	1	
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	9	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	6	-	1	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	1	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	14	-	2	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	8	-	-	
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	10	-	-	-	1	-	-	4	-	2	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	2	-	-	3	-	5	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年30週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	31	-	-	-	-	-	-	-	-	2	34	-	1	1	74
北海道	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	10
神奈川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
三重県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	2
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
岡山県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年30週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	20	-	-	3	94	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	3	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年30週

	野 兎 病		リッサウイルス感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	-	38	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数、疾病・都道府県別

平成16年30週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	17	0.00	3289	1.08	2238	0.73	7529	2.47	2295	0.75	3787	1.24	881	0.29	2367	0.78	45	0.01
北海道	-	-	320	2.24	163	1.14	150	1.05	238	1.66	372	2.60	30	0.21	75	0.52	2	0.01
青森県	-	-	14	0.33	23	0.55	46	1.10	23	0.55	8	0.19	10	0.24	25	0.60	-	-
岩手県	-	-	37	1.00	32	0.86	39	1.05	30	0.81	3	0.08	21	0.57	26	0.70	1	0.03
宮城県	-	-	71	1.20	57	0.97	202	3.42	60	1.02	20	0.34	42	0.71	62	1.05	-	-
秋田県	-	-	20	0.57	28	0.80	70	2.00	21	0.60	4	0.11	9	0.26	24	0.69	-	-
山形県	-	-	21	0.70	53	1.77	51	1.70	24	0.80	6	0.20	12	0.40	25	0.83	-	-
福島県	-	-	52	1.08	52	1.08	179	3.73	61	1.27	5	0.10	8	0.17	38	0.79	1	0.02
茨城県	2	0.02	77	1.04	57	0.77	112	1.51	53	0.72	113	1.53	10	0.14	38	0.51	-	-
栃木県	-	-	51	1.11	20	0.43	90	1.96	23	0.50	8	0.17	11	0.24	27	0.59	1	0.02
群馬県	-	-	111	1.79	55	0.89	124	2.00	53	0.85	11	0.18	39	0.63	37	0.60	1	0.02
埼玉県	-	-	266	1.65	119	0.74	400	2.48	114	0.71	218	1.35	86	0.53	141	0.88	1	0.01
千葉県	-	-	145	1.08	108	0.81	276	2.06	114	0.85	266	1.99	60	0.45	104	0.78	1	0.01
東京都	-	-	147	1.04	59	0.42	306	2.15	63	0.44	173	1.22	44	0.31	82	0.58	3	0.02
神奈川県	2	0.01	234	1.14	150	0.73	383	1.86	140	0.68	285	1.38	94	0.46	173	0.84	1	0.00
新潟県	-	-	101	1.68	43	0.72	89	1.48	45	0.75	80	1.33	41	0.68	52	0.87	1	0.02
富山県	-	-	31	1.07	27	0.93	133	4.59	27	0.93	43	1.48	22	0.76	15	0.52	-	-
石川県	-	-	30	1.03	26	0.90	88	3.03	17	0.59	42	1.45	22	0.76	17	0.59	-	-
福井県	-	-	44	2.00	14	0.64	148	6.73	30	1.36	43	1.95	1	0.05	21	0.95	-	-
山梨県	1	0.02	16	0.64	24	0.96	50	2.00	17	0.68	7	0.28	3	0.12	8	0.32	1	0.04
長野県	-	-	92	1.67	37	0.67	177	3.22	46	0.84	99	1.80	32	0.58	36	0.65	1	0.02
岐阜県	-	-	78	1.47	21	0.40	61	1.15	51	0.96	19	0.36	4	0.08	33	0.62	-	-
静岡県	-	-	99	1.15	41	0.48	302	3.51	68	0.79	96	1.12	19	0.22	87	1.01	1	0.01
愛知県	-	-	151	0.83	114	0.63	372	2.04	77	0.42	71	0.39	34	0.19	134	0.74	3	0.02
三重県	-	-	49	1.09	40	0.89	201	4.47	37	0.82	28	0.62	4	0.09	56	1.24	-	-
滋賀県	-	-	54	1.64	5	0.15	60	1.82	12	0.36	12	0.36	2	0.06	23	0.70	-	-
京都府	-	-	27	0.36	19	0.25	246	3.24	41	0.54	59	0.78	21	0.28	33	0.43	-	-
大阪府	1	0.00	161	0.83	117	0.60	476	2.44	168	0.86	186	0.95	32	0.16	131	0.67	5	0.03
兵庫県	1	0.01	116	0.91	71	0.55	294	2.30	102	0.80	484	3.78	32	0.25	105	0.82	3	0.02
奈良県	-	-	36	1.03	27	0.77	71	2.03	18	0.51	21	0.60	6	0.17	15	0.43	-	-
和歌山県	-	-	28	0.90	16	0.52	80	2.58	24	0.77	2	0.06	8	0.26	26	0.84	-	-
鳥取県	-	-	5	0.26	32	1.68	87	4.58	6	0.32	1	0.05	2	0.11	22	1.16	-	-
島根県	-	-	16	0.70	18	0.78	75	3.26	14	0.61	2	0.09	1	0.04	19	0.83	-	-
岡山県	-	-	22	0.41	17	0.31	126	2.33	28	0.52	30	0.56	7	0.13	42	0.78	-	-
広島県	-	-	64	0.85	42	0.56	250	3.33	34	0.45	19	0.25	14	0.19	71	0.95	3	0.04
山口県	1	0.01	51	1.04	41	0.84	173	3.53	38	0.78	43	0.88	8	0.16	51	1.04	-	-
徳島県	-	-	12	0.52	23	1.00	64	2.78	16	0.70	2	0.09	4	0.17	13	0.57	-	-
香川県	-	-	24	0.75	6	0.19	34	1.06	16	0.50	1	0.03	2	0.06	25	0.78	-	-
愛媛県	-	-	42	1.08	46	1.18	144	3.69	32	0.82	60	1.54	4	0.10	47	1.21	-	-
高知県	-	-	56	1.81	18	0.58	39	1.26	11	0.35	31	1.00	5	0.16	14	0.45	-	-
福岡県	-	-	106	0.88	123	1.03	405	3.38	114	0.95	397	3.31	32	0.27	128	1.07	8	0.07
佐賀県	-	-	8	0.35	15	0.65	31	1.35	21	0.91	58	2.52	1	0.04	39	1.70	-	-
長崎県	-	-	23	0.52	32	0.73	91	2.07	20	0.45	75	1.70	2	0.05	28	0.64	2	0.05
熊本県	-	-	70	1.43	49	1.00	164	3.35	34	0.69	45	0.92	7	0.14	52	1.06	3	0.06
大分県	-	-	23	0.64	50	1.39	208	5.78	27	0.75	118	3.28	20	0.56	46	1.28	-	-
宮崎県	-	-	44	1.19	53	1.43	175	4.73	35	0.95	12	0.32	10	0.27	49	1.32	-	-
鹿児島県	-	-	32	0.56	24	0.42	175	3.07	40	0.70	58	1.02	2	0.04	39	0.68	1	0.02
沖縄県	9	0.16	12	0.35	31	0.91	12	0.35	12	0.35	51	1.50	1	0.03	13	0.38	1	0.03

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成16年30週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	36	0.01	9132	3.00	23	0.01	2872	0.94	10	0.02	611	0.96	8	0.02	56	0.12	103	0.22
北海道	3	0.02	378	2.64	3	0.02	85	0.59	-	-	17	0.59	-	-	-	-	17	0.74
青森県	-	-	113	2.69	-	-	22	0.52	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
岩手県	1	0.03	96	2.59	1	0.03	12	0.32	-	-	16	1.33	-	-	-	-	2	0.10
宮城県	2	0.03	282	4.78	-	-	35	0.59	-	-	4	0.36	-	-	-	-	6	0.50
秋田県	-	-	188	5.37	-	-	-	-	-	-	3	0.43	-	-	-	-	7	1.00
山形県	-	-	214	7.13	-	-	40	1.33	-	-	12	1.50	-	-	-	-	2	0.20
福島県	-	-	248	5.17	1	0.02	18	0.38	1	0.08	20	1.67	-	-	1	0.14	7	1.00
茨城県	-	-	192	2.59	-	-	33	0.45	-	-	36	2.25	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	151	3.28	-	-	21	0.46	-	-	15	1.25	-	-	3	0.43	2	0.29
群馬県	2	0.03	86	1.39	-	-	90	1.45	-	-	51	3.64	-	-	4	0.40	6	0.60
埼玉県	4	0.02	741	4.60	1	0.01	274	1.70	1	0.03	40	1.08	-	-	1	0.11	-	-
千葉県	5	0.04	561	4.19	5	0.04	167	1.25	-	-	24	0.73	1	0.11	2	0.22	2	0.22
東京都	1	0.01	548	3.86	-	-	71	0.50	-	-	9	0.64	-	-	2	0.08	3	0.12
神奈川県	2	0.01	1009	4.90	2	0.01	208	1.01	2	0.05	44	1.05	1	0.08	-	-	-	-
新潟県	-	-	158	2.63	-	-	60	1.00	-	-	3	0.33	-	-	2	0.17	4	0.33
富山県	-	-	150	5.17	-	-	18	0.62	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.03	15	0.52	-	-	9	0.31	-	-	-	-	-	-	1	0.20	-	-
福井県	-	-	57	2.59	-	-	20	0.91	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	43	1.72	-	-	1	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	246	4.47	-	-	27	0.49	-	-	2	0.18	-	-	1	0.09	1	0.09
岐阜県	-	-	130	2.45	1	0.02	82	1.55	1	0.08	5	0.42	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.02	289	3.36	-	-	101	1.17	-	-	16	0.80	1	0.10	2	0.20	4	0.40
愛知県	2	0.01	359	1.97	2	0.01	267	1.47	-	-	44	1.26	-	-	1	0.08	8	0.62
三重県	-	-	142	3.16	-	-	27	0.60	1	0.08	9	0.75	-	-	2	0.22	2	0.22
滋賀県	-	-	68	2.06	-	-	10	0.30	-	-	1	0.14	1	0.14	8	1.14	3	0.43
京都府	-	-	97	1.28	1	0.01	49	0.64	-	-	12	0.67	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	4	0.02	317	1.63	3	0.02	262	1.34	-	-	15	0.31	-	-	-	-	2	0.13
兵庫県	-	-	331	2.59	-	-	139	1.09	1	0.03	33	0.94	-	-	1	0.08	1	0.08
奈良県	2	0.06	70	2.00	1	0.03	16	0.46	-	-	2	0.22	-	-	3	0.50	2	0.33
和歌山県	-	-	64	2.06	1	0.03	38	1.23	-	-	1	0.25	-	-	2	0.18	3	0.27
鳥取県	-	-	53	2.79	-	-	4	0.21	-	-	1	0.33	-	-	3	0.60	-	-
島根県	1	0.04	53	2.30	-	-	17	0.74	-	-	1	0.33	-	-	7	0.88	-	-
岡山県	-	-	123	2.28	1	0.02	39	0.72	-	-	11	0.92	-	-	-	-	2	0.40
広島県	-	-	222	2.96	-	-	86	1.15	1	0.05	33	1.65	3	0.16	5	0.26	2	0.11
山口県	-	-	292	5.96	-	-	75	1.53	-	-	12	1.33	-	-	-	-	7	0.78
徳島県	1	0.04	63	2.74	-	-	7	0.30	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	99	3.09	-	-	14	0.44	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	89	2.28	-	-	53	1.36	-	-	13	1.86	-	-	-	-	2	0.33
高知県	-	-	56	1.81	-	-	11	0.35	-	-	2	0.67	1	0.11	1	0.11	2	0.22
福岡県	1	0.01	336	2.80	-	-	218	1.82	1	0.04	20	0.77	-	-	2	0.13	-	-
佐賀県	-	-	40	1.74	-	-	64	2.78	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	1	0.02	23	0.52	-	-	21	0.48	1	0.13	11	1.38	-	-	1	0.08	-	-
熊本県	-	-	84	1.71	-	-	23	0.47	-	-	16	1.78	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	123	3.42	-	-	17	0.47	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	89	2.41	-	-	9	0.24	-	-	2	0.50	-	-	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	42	0.74	-	-	4	0.07	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	2	0.06	-	-	8	0.24	-	-	45	4.50	-	-	-	-	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成16年30週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	4	0.01	1	0.00	15
北海道	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	...
岩手県	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-
福島県	2	0.29	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	...
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	...
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.11	-	-	-
東京都	-	-	-	-	6
神奈川県	-	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	...
長野県	-	-	1	0.09	-
岐阜県	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	...
愛知県	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	2
兵庫県	-	-	-	-	...
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	...
広島県	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	...
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	1	0.17	-	-	-
高知県	-	-	-	-	...
福岡県	-	-	-	-	...
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	...
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	...
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	...

定点把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県(…)が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

感染症週報 第6巻 第30号 平成16年8月6日発行
発 行: 国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局: 国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
T E L : 03-5285-1111
F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
< 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。